

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

A I 技術が社会の中に浸透し、人間に大きな恩恵をもたらしてくれるとすれば、それはもちろん喜ばしいことだ。A、急激な社会の変化にはどうしても不安が付きまとう。A I の発展による負の影響のひとつとして、人間の仕事が奪われてしまうのではないか。そんな心配がにわかに現実味を増してきた。

2015年に発表されたある試算によると、10～20年後には、日本の労働人口の約49%の仕事がA I によって代替できるような可能性があるとされている。A I に取って代わられる確率の高い①職種として、たとえば工場労働者や店員、受付、運転手などの職種が挙げられることが多い。しかし、今は安泰だと思われている仕事が、20～30年後には危うくなっているかもしれない。ジャーナリスト、弁護士、医師といったより高度な専門職^aまでもが、いずれはb A I に奪われるc可能性があるというd指摘も②ある。

ただし、A I が現在の人間の仕事を奪うにしても、それによって新たな仕事が生まれるので、人間の仕事がなくなることはないと考えられることもできる。実際に、明治時代以降の近代化の中で、人間が行っていた仕事が機械によって代替されるということが起こってきた。結果的に、肉体労働や比較的③単純な作業をする人の割合は減ったが、仕事自体がなくなったわけではなく、技術者やサービス業などの仕事をする人が増えていった。

とはいえ、④さまざまな職種の役割をA I が完全に担うようになり、失業者が増えていく可能性はやはり否定できない。A I の発達にも未知数のところがあり、A I 技術の今後を正確に予測することは難しいからだ。かつて、囲碁や将棋でA I が人間に勝つのはずっと先のことだと思われていたが、すでにトップレベルのプロ棋士でもA I に勝てない時代が到来してしまった。一部では、2045年に、A I が人間の能力を超える「技術的特異点(シンギュラリティ)」に到達するともいわれている。もともと、実際にどのような社会が到来するかについては、見解が一致していない。

A I に仕事を奪われないためには、A I が得意なことと苦手なことについて知り、人間ならではの特性を活かすための能力を身に付けるということが考えられる。それによって、A I と人間で役割分担をしていくことができるかもしれない。

A I は、過去のデータの蓄積から何かを推定することは得意だが、人間のように言語の曖昧な意味を理解することはできない。人間は、計算能力やデータにもとづく⑤予測ではA I に劣るが、一般常識などを考慮しながら総合的な判断をおこなったり、相手の気持ちやその場の雰囲気を感じ取って行動したりする点ではすぐれている。

B、タクシー業界では、どこに行けば効率よく乗客を見つけられるかを過去のデータから判断するA I の導入を開始している。A I によって、天候の変化や周囲で行われているイベントなどの情報をもとに乗客が居そうな⑥場所を予測できるようになっており、長年の経験を持つタクシードライバーでもかなわないところがある。しかし、会話などを通して乗客の様子を見ながら、その乗客に合わせて心のこもったサービスをおこなうことは、人間にしかできないことだ。

先ほど例に挙げた医療現場へのA I の導入についても、⑦同様のことがいえる。確かに、病気の画像診断などでは近い将来に人間の医師の出る幕はなくなるかもしれない。しかし、そのような場合でも、A I と患者の仲立ちをするといった大事な仕事が医師には求められるようになるだろう。A I による診断・治療は患者を不安にさせてしまうこともあるからだ。

A I 医療が比較的進んでいるアメリカでも、A I による診療に患者が抵抗感を示すことが多くあるという。ひとつの原因として、「A I が一般的な患者に対して正確な診断・治療をしてくれるとしても、たったひとりの人間としての「私」に合った医療をしてくれないのではないか」という不安があるのだ。

考えてみれば、A I を使うかどうかに関わらず、病院で診断や治療を受ける患者はいつも不安な思いを抱えている。そうした場面で医師に求められているのは、単に仕事を正確にこなすということだけではないはずだ。たとえば、「痛かったですね」「一緒に治していきますよね」といった、患者に共感するコミュニケーションをおこなう中で、患者の気持ちに寄り添った治療をおこなっていくことも重要だ。A I の判断を参考にしながら、患者にとってより納得のいく医療行為を行うっていくという役割が人間の医師に託されることになるだろう。

要するに、単純な答えが求められる計算や予測はA I に任せてしまえばよい。その一方で、個別の状況に合った細やかな対応力やコミュニケーション能力を人間が発揮していくことができれば、A I との共存が可能になると考えられる。C、人間の仕事を奪うのではなく、人間の仕事をサポートしてくれるものとして、A I を活用する方法を探っていくということだ。

(樋口裕一『18歳から100歳までの日本の未来を考える17のキーワード』による)

(注1) A I——人工知能。Artificial Intelligence の略。

(注2) 負——好ましくない状態。良くない物事。

問1 A C にあてはまることばを、次のア～オから一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア さらに イ つまり ウ しかし エ たとえば オ ところで

問2 線部①「職種」の熟語の構成を説明したものとして最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 反対や対になる意味の漢字を組み合わせたもの。

イ 同じような意味の漢字を組み合わせたもの。

ウ 上の漢字が下の漢字の意味を説明(修飾)しているもの。

エ 上に「無・不・未・非」などがついて下の漢字を打ち消しているもの。

問3 線部②「ある」の主語として最もふさわしいものを、a～dから一つ選び、記号で答えなさい。

問4 ー線部③「単純」の対義語(反対の意味の言葉)として最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。
ア 純真 イ 簡単 ウ 複数 エ 複雑

問5 ー線部④「さまざまな職種の役割をAIが完全に担うようになり、失業者が増えていく可能性はやはり否定できない」とありますが、そのような不安を乗り越えてAIと共存していくためにはどのようなようにすればよいと筆者は考えていますか。それを説明した次の文の「 ー 」に入ることばを、「答え」ということばを使って二十字以内で答えなさい。

・AIに「 ー 」を任せ、人間のサポートをするものとしてAIを活かしていく。

問6 ー線部⑤「予測」の同義語(似た意味の言葉)として最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 予想 イ 予習 ウ 予備 エ 予行

問7 ー線部⑥「場所」と熟語の構成が同じものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 明暗 イ 投手 ウ 温暖 エ 国営

問8 ー線部⑦「同様のことがいえる」とありますが、どのようなことがいえるのですか。これについて次のようにまとめるとき、「 ー 」に入る言葉を本文中から十五字でぬき出して答えなさい。

・会話などから相手の様子を見て、相手に合わせて「 ー 」ことは、人間でなければできないということ。

問9 本文の内容と合っているものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア AIに仕事を奪われないために、人間は計算能力やデータから予測する力を身に付ける必要がある。
イ 人間にはコミュニケーション能力や考える力があるので、AIに仕事を奪われるということはない。
ウ AIは、データの蓄積や予測などは人間より優秀だが、人間の仕事を全てできるといわけではない。
エ AIは人間に大きな恩恵をもたらすが、失業者の増加にもつながるので、導入は慎重に行うべきだ。

二

次の各問いに答えなさい。

問1 次の ー線部の漢字の読みをひらがなで書き、カタカナは漢字に直しなさい。

① まちがいを認める。 ② わずかに誤差がある。
③ あちらをこ覧ください。 ④ 荷物がトドク。
⑤ ヒキヨウにある温泉地。 ⑥ リヨウシユウ書を受け取る。

問2 次の①～⑥の□にあてはまる漢字を、後の漢字群から一つずつ選んで答えなさい。

① □のない所に煙は立たぬ ② □から出たさび
③ 類は□を呼ぶ ④ 大は□をかねる
⑤ とらぬ狸の□算用 ⑥ どんぐりの□比べ

漢字群

身・馬・小・水・火・背・皮・友